

② 心豊かでたくましい 児童生徒の育成

① 義務教育

「基礎学力の向上」

新しい学力観に立った基礎・基本の確実な定着を図ることをねらいとする「小・中学校基礎学力向上推進事業」は、本年度で三年目を迎えました。学力向上推進地区として指定された地区においては、教育内容・方法の改善充実のための実践的な研究を重ね、着実に成果をあげています。大きな成果をあげている要因を概括的に述べると、教育活動の一つ一つ、一時間一時間に工夫を凝らし、組織的・継続的に着実に実践を重ねてきたということであり、まさに「教育に王道なし」というところで。今年度スタートした「T・T方式推進モデル事業」は、個に応じた指導の一層の充実を図るため、モデルとなる実践研究を行い、その成果を県内の各小・中学校に普及、浸透させることを目指しています。言うまでもなく指導は成果をもつてその成否を問うものであり、指導法の改善・充実が、児童生徒のためになされなければなりません。

前述の基礎学力向上推進事業とあわせて、その成果に大いに期待しているところです。

一、平成六・七年度の基礎学力向上推進地区の取組と成果について

1 教科指導における主な実践内容と成果

(一) 指導計画の改善

ア 基礎的・基本的内容の分析と指導内容の精選

イ 学校及び各教科の基礎学力向上プランの作成

ウ 教科の特性に応じたT・Tの導入

エ 学習内容をまとめたり学習の仕方を確かめたりする場の設定

オ 単元を見通した練習活動の時

(二) 学習過程の工夫

ア 体験的・問題解決的な学習の導入と工夫

イ コース別学習などの導入

ウ 自力解決の場と時間の確保

エ 定着の時間の確保

オ 学習の仕方、発表の仕方の訓練の時間の確保

ア 一斉学習、一人学習、グループ学習などを組み合わせた個に応じる学習形態の工夫

イ コース・課題別学習や進度・習熟の程度に応じた学習の積極的な導入による学習形態の多様化

ウ T・Tの導入による多様な指導形態の工夫

エ 支援と評価の工夫

ア 学習の足跡が分かるノート作り

イ 自力解決の時間における個に応じる支援

ウ 座席表活用による個に応じた指導

エ 学習カード、音読カードの活用

オ 自己評価表の工夫

カ 反復練習や豆テスト、学力テストの実施と活用

キ 診断テストの実施と分析

ク 総合的な指導の実践と成果

ケ 家庭学習の指導と学びの習慣の形成

コ 授業と直結した家庭学習の課題作成

カ 「学習の手引き」の作成と活用指導

キ 図書室利用の指導と読書時間の確保

ク 標準学力検査の結果の向上

ケ 児童生徒の主体性の伸長と思考力、表現力の向上

コ 授業の活性化

一、T・T方式推進モデル事業

1 事業内容

(一) T・Tによる学習指導改善の具体的な研究

(二) 個に応じた指導による基礎学力定着・向上策の研究

(三) 推進地区T・T指導法研究会の実施

(四) 学力診断テストによる変容調査の実施

基礎学力向上推進地区標準学力テスト結果の推移

国語	算数・数学	英語	学年	段階	標準学力テスト結果				
					1	2	3	4	5
国語	算数・数学	英語	6	小4 (6月)	7.3	21.1	40.7	26.4	4.5
			7	小5 (2月)	4.9	14.6	40.2	32.1	8.2
			6	小6 (6月)	7.0	23.5	37.3	26.4	5.8
			7	中1 (2月)	5.8	25.0	33.2	25.5	10.5
			6	中2 (6月)	5.0	24.5	40.8	24.7	5.0
			7	中3 (2月)	6.7	21.0	35.4	31.3	5.6
算数・数学	英語	英語	6	小4 (6月)	8.9	21.7	33.2	31.5	4.7
			7	小5 (2月)	4.3	21.7	35.6	29.1	9.4
			6	小6 (6月)	6.8	30.8	37.9	19.1	5.4
			7	中1 (2月)	7.9	28.9	33.5	22.9	6.8
			6	中2 (6月)	6.6	24.2	37.3	25.3	6.6
			7	中3 (2月)	6.9	25.5	34.1	25.7	7.9
英語	英語	英語	6	中2 (4月)	4.6	27.3	38.4	24.4	5.3
			7	中3 (2月)	4.0	25.9	35.2	29.3	5.6